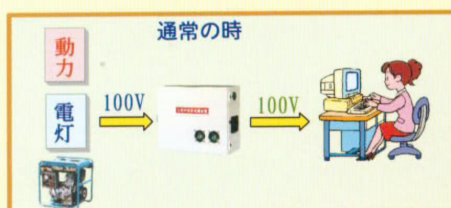


私たちの生活・ 仕事・財産は、 電気により守ら れています。



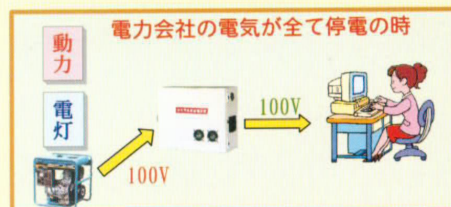
バックアップ作動説明



通常は、電灯分電盤から100Vの電気を取り入れ電気機器に100Vの電気を供給します。



電灯分電盤の100Vの電気が止まると、他の分電盤の200Vの電気を取り入れ、装置の変圧機能で100Vに調整して電気機器に供給します。



電力会社からの全ての電気が止まると、発電機を作動(手動で)させ、100Vの電気を供給します。電力会社のどちらかの電気が回復すると、発電機の電気の取り入れを中止し、電力会社の電気に切り替えます。

無駄をなくした設計

発電機は小型のものを複数組み合わせています。従来のように無駄に大型発電機を付けるのではなく、どうしてもバックアップの必要な機器・設備を選び電気を供給します。同じ能力の発電機に比べコストが安く、メンテナンスが容易です。能力は大型の発電機と同じですが、経済性では当機が勝っています。また省スペースで設置する場所を選びません。固定式とは違い移動可能なため、屋外の作業・災害時の基地・平時のリレレーションに利用できます。

誘導雷対策

落雷は大気の不安定な時に発生します。ここ数年、都市部の夏の夕方に多く発生しています。その落雷時に発生する誘導雷で、大切な電子機器が一瞬に破壊され、特にコンピューターのデータに甚大な被害が出ています。メディバックと防人には、誘導雷から電子機器を守る最新の対策が施されています。

電圧調整機能

電力会社の電気は必ず100Vあるとは限りません。高すぎる電圧は無駄な消費電力となり、低すぎる電圧は電気機器を不安定にし、本来の能力を発揮できません。メディバックと防人は、電圧の調整機能があり、電気機器に無駄のない最適な電圧を供給します。

救援を期待できない広域災害



阪神淡路大震災は、私たちの生活を支えているライフラインの電気・ガス・水道・通信・交通網を完全にマヒさせました。これらのライフラインは、日頃意識することもなく当然のように利用しています。私たちはこの事が当たり前すぎてこれらが無くなった時の生活の事を、考えた事ありませんでした。そんな時に大震災が起きました。

被災者の方たちの苦しかった貴重な教訓が、数多く伝わってきました。しかし時間の経過とともに、私たちの記憶から薄らいでいくその貴重な教訓を、もう一度思い浮かべてはみませんか。

私たちにその時、何が必要で、何ができるかを、真剣に考える時ではないでしょうか。

神戸では電気が復旧するのに7日間もかかりました。二度と繰り返したくない7日間でした。

現在、関東・東海地方では東海大地震・関東大震災・富士山の噴火どれをとっても、今日起きてもおかしくない状態です。

電子機器を一瞬に破壊する局所災害



落雷と聞くと、あのピカッと光る稲妻の、ごく狭い地区の災害と思われていました。ところが、その雷が落ちるとかなり広い地域の電子機器が破壊されます。雷が落ちなくても雷雲が近づくだけで、電子機器の破損があります。

この現象は、電子機器が多くなった現在特有の災害です。原因は雷の巨大な電気エネルギーにあります。巨大な電気エネルギーのため、雷雲が近づくとその雷雲の電気エネルギーが、電線や屋外の電子機器に誘導され、特に電氣的に弱い半導体などが一瞬にして破壊されます。

このことを誘導雷と呼んでいます。現在を支えている電子機器が、標的になっています。



東京都下の町営診療所

電子機器の発達と共に、医療機器もその恩恵を受けています。その高度な医療機器も、他の電子機器と同じく誘導雷には弱い存在です。

しかも医療機器の場合、問題をもっと深刻です。その医療機器を使って、治療中の患者さんに誘導雷が原因で感電する事態が発生しています。

東京都の奥多摩地区は落雷の多い地区で、その誘導雷の影響を以前より受けていました。しかし現在は、奥多摩地区の町営診療所に当社のメディバックが、誘導雷対策と診療所の非常時のバックアップ電源として導入され、活躍しています。



メディバックと防人には電圧の調整機能があります。その機能を使って電気器具や電気設備が、必要以外に無駄に消費している電気エネルギーをカットして、大幅な省エネができます。



メディバックと防人は、安全と省エネを同時に得ることができます。

お問い合わせ先: 株式会社モアズバド

080-3691-1436
担当: 浅利(あさり)